

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
福岡ECO動物海洋専門学校		平成16年2月23日		谷川 浩史		〒 812-0033 (住所) 福岡県福岡市博多区大博町4-16 (電話) 092-262-2177				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日		浮舟 邦彦		〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6-16-2 (電話) 03-5878-3311, 03-6808-3201				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養専門課程		エコ・コミュニケーション科(ペットリマー&エステティシャン専攻) (2024年度変更)		平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことを使命とし、動物・海洋・自然の仕事を通して、人に喜びと感動を与え、動物業界での即戦力となる人材を養成する。									
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	主な教育内容: ペットも飼い主様も笑顔にできるトリマーの幅広い技術とスキルを学ぶ。 取得可能な資格: ・JKC公認トリマーC級ライセンス・ECOグルーミング検定A級、B級・ECOアニマルコーディネーター検定・JESC認定コミュニケーションスキルアップ検定									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			2,700 単位時間	630 単位時間	4,515 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					— 単位	— 単位	— 単位	— 単位	— 単位	— 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率				
360 人の内数	57 人		0 人		0 %	17.0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		0		人					
	■就職希望者数(D)		0		人					
	■就職者数(E)		0		人					
	■地元就職者数(F)		0		人					
	■就職率(E/D)		0		%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0		%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		0		%					
	■進学者数		0		人					
	■その他									
	(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等										
(令和5年度卒業生) 卒業生実績なし										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無					
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://www.eco.ac.jp									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		5,145 単位時間							
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間							
	うち企業等と連携した演習の授業時数		1,395 単位時間							
	うち必修授業時数		2,520 単位時間							
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間							
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		270 単位時間							
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		180 単位時間							
	(B: 単位数による算定)									
	総単位数		— 単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		— 単位								
うち企業等と連携した演習の単位数		— 単位								
うち必修単位数		— 単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		— 単位								
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		— 単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		— 単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0 人					
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0 人					
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		1 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人					
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		2 人					
	計				3 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させることを基本方針とし、次のような取り組みを行っている。企業との連携について、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらう取り組みも行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程については、学校関係者評価委員会の意見も踏まえ、毎年5月に開催する教育課程編成委員会において改訂内容を審議し、その内容を踏まえ年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
坂本 恵理	株式会社ピースパ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山口 響	株式会社AHB	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
谷川 浩史	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
満原 翔一	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
生野 祐二	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
村上 弘志	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
林田 新太郎	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月14日 15:10～16:00

第2回 令和7年2月6日 実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

トリミング技術だけではなく、人間力(挨拶・主体性・気付き力など)を高めてもらいたい。という意見を頂いた。そこで「現場を知る事、人間力を高めさせること」を目的とし業界研修へ行く機会を多く持たせるようにした。研修に行く前の「研修ガイダンス」を実施し、業界研修の大切さと臨む姿勢を伝え、またMicrosoft Teamsを活用し、研修情報を流すなど学生達が動きやすい環境を作った。また、春季(3月)・夏季(7.8月)の長期休暇にはトリミング技術向上のセミナーを実施。3年制というメリットを活かし「専門性」と「人間性」の両面からのサポートを年間を通して実施している。専門性だけではなく、ペットサロンにおけるオプション促進力・販売促進利欲をつけ、マネジメント、ホスピタリティなどの人間力を向上させ、将来的な選択肢の一つとなるよう独立開業についても学ぶ授業を取り入れている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成に取り組んでおり、特に演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案・実施し、達成度評価を行うことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。研修実施前の協議を徹底すると共に、教員による研修先の訪問を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
グルーミング演習	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	犬の美容の基本技術からカットの方法などができるようになる。	ドッグサロン コットンキャンディ
トリミング演習Ⅰ・Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	犬の美容の基本技術から、犬種の特性を生かしたカットの方法など総合的にトリミングの技術を習得し120分でカットできるようになる。	marshmallowman
トリミング理論Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	トリマーとしての動物の取り扱い、犬体名称、道具の使い方から皮膚・被毛の科学まで、トリミングの基本的な論理を学び説明ができる。	marshmallowman
トリミング理論Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	ショートトリミングの方法からドッグショーのハンドラーの基本や、ドッグショーのシステムやジャッジの知識など幅広く学び説明ができる	東福岡ショードッグクラブ
コンパニオンドッグ	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	犬種の歴史、犬体、犬種の特徴などを習得すると共に、血統書の見方や登録方法を学び説明ができるようになる。	東福岡ショードッグクラブ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講師をお招きしての講習会、セミナーに専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	トリミング研修会	連携企業等:	ジャパンケネルクラブ
期間:	2023年8月17日	対象:	トリマー系職員
内容:	トリマー試験・競技会に関する規定改正について知る機会		
研修名:	2023FCI九州インターナショナルドッグショー	連携企業等:	JKC九州ブロック協議会
期間:	2023年11月19日	対象:	トリマー系職員
内容:	550頭が集まる九州最大のドッグショー。見学することで、質の良い犬を知る機会になる。		
研修名:	第43回2024トリミング競技大会	連携企業等:	ジャパンケネルクラブ
期間:	2024年4月6日	対象:	トリマー系教員
内容:	2023年度の養成機関校代表者による大会。他校のトリミング技術力から立ち居振る舞いを知る機会		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅰ	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023年5月24日	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感しクラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正が出来るようになる。ひとりで「クラス」をささえるのではなく、学生のセーフティーネットが構築できる。		
研修名:	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅱ	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023年7月26日	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感、クラスマネジメントのポイントを理解し、「クラス」をひとりで支えることなく、学生のセーフティーネットの運用のため「実行計画」作成、実践、修正ができるようになる。		
研修名:	教職員カウンセリング研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023年9月	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。		

(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: シャボン玉せっけん無添加の取り組みと歴史	連携企業等: シャボン玉せっけん
期間: 2024年3月22日	対象: トリマー系/ドッグ系教員
内容: 犬用無添加シャンプーを知る機会	
研修名: 2024FCI九州インターナショナルドッグショー	連携企業等: JKC九州ブロック協議会
期間: 2024年11月17日	対象: トリマー系職員
内容: 約500頭が集まる九州最大のドッグショー。見学することで、質の良い犬を知る機会	
研修名: トリミングシザーについて	連携企業等: 東京理器株式会社
期間: 2025年2月頃	対象: トリマー系職員
内容: トリミングシザーの歴史から使い方、管理方法まで幅広く学び、トリミング機材を知る機会	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 教務勉強会(事例検討会)	連携企業等: 滋慶トータルサポートセンター
期間: 2024年11月20日	対象: 全学科教員
内容: 多様化している学生・生徒に対応することや、サポートが必要な学生に対し今後どのようにサポートしていけば良いか等、実際の事例報告を行い勉強会を実施。クラスマネジメント力の向上を目的とする。	
研修名: FDミドルレベル研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2024年7月18日	対象: 全学科教員
内容: FD研修の目的とその展開を理解し、自学科のスタッフの成長を促進出来る。カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見が出来る。	
研修名: マネジメント研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2024年10月22日	対象: 全学科教員
内容: 学校運営に関する必要な知識の習得並びに、姉妹校の成功事例を学ぶことで、新たな視点で自校の学校運営を考え、在校生・卒業生・教員・講師並びに動物業界にとって、より良い学校になるように反映させる。	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年に1回以上委員会を開催する。評価委員会は、本校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かすことを目的とする。評価委員は、卒業生1名、保護者代表1名、近隣関係者1名、高校関係者1名並びに動物業界関係者6名の合計10名の委員定数で構成され、任期は1年である。毎年5月に開催している。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	海外提携校との交流
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

継続的な取り組み(これまでの学校評価を踏まえ継続的に実施している内容)

- ・学生の満足度を判断する材料の一つとして定期的に授業アンケートを実施し、その内容を踏まえ、講師会で伝え改善に努めている。また職員の研修を強化し授業づくり、クラス作りに繋げている。
- ・学生が心の悩み等で不登校や中途退学になり、修学を断念することが無いよう、学生相談窓口を徒歩3分の場所に設置し専属のカウンセラーを常駐し、心を支える取り組みをしている。
- ・卒業教育及び再就職サポートとして対面による面談のみならず、オンラインや電話を含む相談窓口を用意し実践している。

昨年度の評価で指摘された事項で、留意して取り組んでいく事項

- ・卒業生の大規模な調査を実施し、意見を吸い上げフィードバックした方が良い。
- ・国家試験の合格率が気になる。今後の活動に影響があるので少しでも合格者を増やしてほしい。
- ・急激な時代の変化の中、スタッフは対応が難しい部分もあるだろうが学生満足度向上のため、支援体制は継続してほしい。
- ・防災計画がしっかりとしているので、学生にも災害に対する危機意識をどう持ってもらうかが課題だと思う。
- ・福岡が県をあげて取り組んでいる「ワンヘルス」に関連した貢献活動ができるのであればニーズは高いと思う。

などの多くの意見をいただいた。これらの意見を踏まえ、各部門で改善できる内容については、事務局長・教務部長・各学科長で協議し、更に教務会議及び全体会議等でこれらの意見をスタッフ全員で共有し、具体的な対策を検討しその実現を図っている。教育内容については、毎年5月ごろに開催する教育課程編成委員会に評価委員会の意見を示し、その審議を踏まえ、年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
坂本 恵理	株式会社ビースパ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
山口 響	株式会社AHB	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
田中 飛翔	動物園・動物飼育2年 田中ひなた保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者
鶴澤 拓哉	エコ・コミュニケーション科 動物園公務員専攻卒業	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
戎崎 淳一	福岡市大浜公民館	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	近隣代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.eco.ac.jp/>

公表時期: 2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校が毎年定める事業計画の実行方針において提起された目標を具体化するために、動物業界の企業等からヒアリングを行い、動物業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法として、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等を審議を行い、そこで出たご意見を反映させることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、事業計画、事業報告
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(3) 教職員	教職員の氏名、略歴等の紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校設備紹介等
(6) 学生の生活支援	学校相談センターの案内、奨学金申込み案内等
(7) 学生納付金・修学支援	授業料及びその他実習費
(8) 学校の財務	事業計画、事業報告
(9) 学校評価	自己点検、自己評価結果、学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	海外提携校との交流
(11) その他	社会貢献(地域社会と連携した行事)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://www.eco.ac.jp/>
公表時期: 2024年7月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 エコ・コミュニケーション科 (ペットトリマー&エステティシャン専攻) (2024年度変更))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアプランニングⅠ	クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	1前後	60	4	○			○	○		
2	○			キャリアプランニングⅡ	将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識を身につける。また検定や試験合格に向けての心構え・心構えを身につける。	2前後	60	4	○			○	○		
3	○			キャリアプランニングⅢ	2年間のキャリア教育で身につけたセルフマネジメントとチームマネジメントを実践し、就職内定を勝ち取ることができる。	3前後	60	4	○			○	○		
4	○			コミュニケーションスキルアップ	良識のある社会人になるために、必要なコミュニケーションを身につけ、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1前後	60	4		○		○		○	
5	○			ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	1前後	60	4		○		○		○	○
6	○			コンピュータ演習	ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な使い方を学び応用・作成ができるようになる。	1前後	60	4		○		○		○	
7	○			デジタルコンテンツ演習	SNSやホームページ、映像などの作成・活用を学び、効果的な表現・発信をすることができる。	随時	30	2		○		○		○	○
8	○			動物の体のしくみ	犬を中心とした基本的な動物の体の構造骨格や生理的な知識を学び、説明ができる。	随時	30	2	○			○		○	
9	○			動物の健康管理	動物を飼育するための飼育管理方法や、病気やその予防法を学び説明ができるようになる。	随時	30	2	○			○		○	
10	○			アニマルベーシック	動物業界の仕事に携わるために必要な知識を学ぶ上で、その基礎となる細胞、遺伝子、体の機能を学び、説明できるようになる。	随時	30	2	○			○		○	
11	○			アニマルトレーニング	犬の行動心理や学習の原理原則を学び、犬が人に求める事を提供できるようになる。	随時	30	2	○			○		○	○
12	○			アニマルヒストリー	民族や宗教、歴史等の観点から人と動物の関わりに関して考え説明できるようになる。	随時	30	2	○			○		○	
13	○			コンパニオンドッグ	犬種の歴史、犬体、犬種の特徴などを習得すると共に、血統書の見方や登録方法を学び説明ができるようになる。	1前後	60	4	○			○		○	
14	○			コンパニオンキャット	猫の歴史・体・習性・飼育管理・スタンダード・キャットショーについて幅広く学び説明ができるようになる。	随時	30	2	○			○		○	
15	○			犬の飼養管理	犬を家庭動物として飼育する為に必要な環境や対応を学び、自分の飼養観を持つ事ができるようになる。	随時	30	2	○			○		○	○

16	○	ドッグトレーニング演習	犬に対する基本的な指示出しを行えるよう、JKCの訓練課目を学内犬と共に実践できるようになる。	3前後	120	8	○	○	○	○
17	○	食餌と栄養	犬のライフステージに合わせた栄養の知識と食餌管理を習得し説明ができるようになる。	随時	30	2	○	○	○	○
18	○	ブリーディング	犬の生殖器のしくみや性周期・交配と出産のメカニズムや遺伝について学び、説明ができるようになる。	随時	30	2	○	○	○	○
19	○	動物の健康管理Ⅱ	動物の病気・怪我や異常についての基本的な知識や処置の方法を身につけ、ペットトリマーとして動物・飼い主に寄り添った提案・アドバイスができるようになる。	随時	30	2	○	○	○	○
20	○	動物看護演習	動物の怪我の応急処置やケアの方法を学び、説明・実践できるようになる。また就職後、動物や飼い主に寄り添った提案・アドバイスができるようになる。	3前後	120	8	○	○	○	○
21	○	ショップマネジメントⅠ	企業・店舗経営のノウハウや基礎知識を理解する。また企業と連携し実践する。	2前後	60	4	○	○	○	○
22	○	ショップマネジメントⅡ	1年次に学んだ知識を活かし、よりリアルに実践する。運営・経営に関するマネジメントを理解し、流通、集客まで幅広く学び実践する。	3前後	120	8	○	○	○	○
23	○	トリミング理論Ⅰ	トリマーとしての動物の取り扱い、犬体名称、道具の使い方から皮膚・被毛の科学まで、トリミングの基本的な論理を学び説明ができる。	1前後	60	4	○	○	○	○
24	○	トリミング理論Ⅱ	ショートトリミングの方法からドッグショーのハンドラーの基本や、ドッグショーのシステムやジャッジの知識など幅広く学び説明ができる	随時	30	2	○	○	○	○
25	○	グルーミング演習	犬の美容について学び、基本的なお手入れを実践できる。	1前後	180	12	○	○	○	○
26	○	トリミング演習Ⅰ	犬の美容の基本技術から、犬種の特性を生かしたカットの方法など総合的にトリミングの技術を習得し120分でカットできるようになる。	1前後	240	16	○	○	○	○
27	○	トリミング演習Ⅱ	犬の美容の基本技術から、犬種の特性を生かしたカットの方法など総合的にトリミングの技術を習得し120分でカットできるようになる。また、JKC公認トリマーライセンスC級試験合格を目指す。	2前後	540	36	○	○	○	○
28	○	トリミング演習Ⅲ	トリミング技術の基礎をマスターし、応用的なカットに取り組み、さらに技術の向上を目指す。	3前後	360	24	○	○	○	○
29	○	トリミング演習Ⅳ	卒業後のJKCトリマーA・B級試験合格を目指し、さらにトリミング技術の向上を目指す。	3前後	180	12	○	○	○	○
30	○	進級課題	学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。	随時	120	8	○	○	○	○
31	○	卒業課題	入学以来これまで身につけた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行う。	3後	60	4	○	○	○	○
32	○	海外実学研修	グローバル化する現代社会で活躍するために、国際性を身につけるための国際教育。	1後	60	4	○	○	○	○
33	○	海外専門留学	10週間オーストラリアに留学し、さらなる専門知識や技術を修得すると共に、国際人としての語学力と感性を身に付ける事を目的に実施します。	随時	450	30	○	○	○	○

34	○	選択科目	業界でより活躍するための、専門知識・技術を幅広く学ぶ。	随時	120	10	○	○	○				
35	○	グローバルコミュニケーション	リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的に学び、日常生活において平易な会話ができるようになる。	随時	720	48	○	○	○				
36	○	業界研修	企業から課題をいただき、それに取り組むことにより専門知識・技術に磨きをかけます。	随時	180	12	○		○	○	○	○	
37	○	特別講義 & 見学	業界で活躍中のプロの方々から豊富な知識・情報を頂く特別授業や施設見学を行う。	随時	45	3	○		○		○	○	
38	○	イベント運営	学習成果の発表の場としてのイベントを行い、習得した専門知識や技術を実践する。	随時	45	3	○			○	○		
39	○	特別課外活動	学友会活動やクラブ活動を通して、チームワークや企画、運営力を養う。	随時	45	3	○		○		○		
40	○	ボランティア活動	市民社会の形成に貢献するために、ボランティア活動を行います。	随時	45	3	○			○	○		
41	○	資格取得講座	各専攻で学んだ専門知識や技術の、さらなるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し資格取得を目指します。	1後	45	3	○		○			○	
42	○	内定者研修	就職内定者を対象に、現場力を身につけるために実践的な研修を行ない、卒業時には即戦力として活躍できるようになる。	2後	90	6	○			○		○	○
43	○	特別研究課題	就職内定者を対象に、就職先よりレベルの高い研究課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	12	○			○		○	○
44	○	卒業企業課題	就職内定者を対象に、就職先より企業課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	12	○			○		○	○
合計					44	科目	5145 単位時間						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：（単位時間を単位に換算し）各年次60単位以上取得し、3年間で180単位以上取得する。これを踏まえ、卒業認定会議で卒業認定されること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：選択必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66, 7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																								
福岡ECO動物海洋専門学校	平成16年2月23日	谷川 浩史	〒 812-0033 (住所) 福岡県福岡市博多区大博町4-16 (電話) 092-262-2177																																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																								
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6-16-2 (電話) 03-5878-3311, 03-6808-3201																																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																																						
文化・教養	文化・教養専門課程	エコ・コミュニケーション科(動物園・動物飼育専攻)	平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度																																						
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことを使命とし、動物・海洋・自然の仕事を通して、人に喜びと感動を与え、動物業界での即戦力となる人材を養成する。																																										
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	主な教育内容:さまざまなスタイルの動物園施設で活躍できる動物飼育スタッフの技術とスキルを学ぶ。 取得可能な資格:生物分類技能検定3級、4級・愛玩動物飼養管理士2級・乗馬技能検定4級、5級・ECOアニマルコーディネーター検定 ・JESC認定コミュニケーションスキルアップ検定																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																				
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,700 単位時間	660 単位時間	4,275 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																																			
			— 単位	— 単位	— 単位	— 単位	— 単位	— 単位																																			
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																																							
360 人の内数	178 人	1 人	1 %	3.9 %																																							
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 5 年度卒業者に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 卒業生実績なし</p>							■卒業者数(C)	:	0	人	■就職希望者数(D)	:	0	人	■就職者数(E)	:	0	人	■地元就職者数(F)	:	0	人	■就職率(E/D)	:	0	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	0	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	0	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業者数(C)	:	0	人																																								
■就職希望者数(D)	:	0	人																																								
■就職者数(E)	:	0	人																																								
■地元就職者数(F)	:	0	人																																								
■就職率(E/D)	:	0	%																																								
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	0	%																																								
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	0	%																																								
■進学者数	:	0	人																																								
■その他	:																																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無																																								
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL																																								
当該学科のホームページURL	https://www.eco.ac.jp																																										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>4,935 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>1,875 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,310 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>870 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>270 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>— 単位</td></tr> </table>							総授業時数	4,935 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	1,875 単位時間	うち必修授業時数	2,310 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	870 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	270 単位時間	総単位数	— 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	— 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	— 単位	うち必修単位数	— 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	— 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	— 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	— 単位								
総授業時数	4,935 単位時間																																										
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																										
うち企業等と連携した演習の授業時数	1,875 単位時間																																										
うち必修授業時数	2,310 単位時間																																										
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																										
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	870 単位時間																																										
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	270 単位時間																																										
総単位数	— 単位																																										
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	— 単位																																										
うち企業等と連携した演習の単位数	— 単位																																										
うち必修単位数	— 単位																																										
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	— 単位																																										
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	— 単位																																										
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	— 単位																																										
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>3 人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td></td> <td>2 人</td> </tr> </table>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人	計		3 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2 人															
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2 人																																									
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																									
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																									
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																									
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人																																									
計		3 人																																									
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2 人																																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させることを基本方針とし、次のような取り組みを行っている。企業との連携について、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらう取り組みもしている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程については、学校関係者評価委員会の意見も踏まえ、毎年5月に開催する教育課程編成委員会において改訂内容を審議し、その内容を踏まえ年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
坂本 恵理	株式会社ピースパ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山口 響	株式会社AHB	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
谷川 浩史	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
満原 翔一	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
生野 祐二	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
村上 弘志	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
林田 新太郎	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)
年2回(5月、2月)
(開催日時(実績))
第1回 令和6年5月14日 15:10～16:00
第2回 令和7年2月6日 実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
・動物福祉の観点が目目されている。動物園スタッフは動物好きだが、飼育動物を“ペット化”してしまう傾向がある。その点も学生に伝わっていただいている。また飼育員ではなく、マネージャークラスを目指す専攻となるためにマネジメント力を身に付けるカリキュラムの強化。飼育だけではなく接客など経営面も総合的に考えることができる人材を育成する。
・持続的に動物園や水族館を運営するためには、世界動物園水族館協会(WAZA)が発行している出版物を熟読する必要がある。翻訳したものが読みづらい所があるが、野生生物への配慮や、保全についての取り組み等授業内で紹介をしていく必要がある。
・専門性だけではなく、マネジメント、ホスピタリティなどの人間力を向上させ、将来的な選択肢の一つとなるよう独立開業についても学ぶ授業を取り入れている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成に取り組んでおり、特に演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案・実施し、達成度評価を行うことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。研修実施前の協議を徹底すると共に、教員による研修先の訪問を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
野生動物管理学	1. 【校内】企業等からの講師が全て授業をを担当 小動物を中心に実際の清掃から給餌・健康管理まで基本的な飼養管理を理解し実践できるようになる。	津田堅之介生物生態写真研究所
動物行動論	1. 【校内】企業等からの講師が全て授業をを担当 小動物を中心に実際の清掃から給餌・健康管理まで基本的な飼養管理の知識やスキルを人に伝えることができるようになる。	Dolphin Boy Academy
SDGs	1. 【校内】企業等からの講師が全て授業をを担当 学内外での動物ふれあいイベントや教育活動を企画し、設営や接客を実践できるようになる。	一般社団法人日本SDGs協会
動物の栄養	1. 【校内】企業等からの講師が全て授業をを担当 企業より課題をいただき、プロジェクトを企画・運営まで実践できるようになる。	中本乗馬倶楽部
動物飼育演習Ⅱ	4. 【校外】企業等が主催するインターンシップ等(学科が主体的に企画していないものを指す。) グローバル化する現代社会で活躍するために、国際性を身につけるための国際教育。	大牟田市動物園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講師をお招きしての講習会、セミナーに専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: プロの仕事とは	連携企業等: 江戸家猫八氏
期間: 2023年6月13日	対象: 全職員
内容: 業界のプロとなるための心構えと動物の行動・習性、観客へ伝えるプレゼンカについて	
研修名: 動物飼育従事者としての心構え	連携企業等: 大分アフリカンサファリ
期間: 2023年5月31日	対象: 飼育系職員
内容: 動物園獣医師から見た飼育従事者の心構えと仕事のやりがいについて	
研修名: 動物福祉について	連携企業等: Hand in Paw
期間: 2023年8月25日	対象: 全職員
内容: 動物福祉の概念から、動物愛護について	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅰ	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2023年5月24日	対象: 全学科教員
内容: 滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感しクラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正が出来るようになる。ひとりで「クラス」をささえるのではなく、学生のセーフティーネットが構築できる。	
研修名: FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅱ	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2023年7月26日	対象: 全学科教員
内容: 滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感、クラスマネジメントのポイントを理解し、「クラス」をひとりで支えることなく、学生のセーフティーネットの運用のため「実行計画」作成、実践、修正ができるようになる。	
研修名: 教職員カウンセリング研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2023年9月	対象: 全学科教員
内容: 滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。	

(3) 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 動物園における環境エンリッチメントと動物福祉	連携企業等: 大牟田市動物園
期間: 2024年10月頃	対象: 飼育系職員
内容 現場飼育員との意見交換をし、実際にエンリッチメント道具の作成及び設置。行動サンプリングをとる。	
研修名: 卒業生座談会	連携企業等: 各動物施設(5施設)
期間: 2024年11月頃	対象: 飼育系職員
内容 動物現場で働いている卒業生による現場の生の声を聴く座談会。求められる人物像など。	
研修名: 新しいサファリの楽しみ方の提案	連携企業等: 秋吉台自然動物公園
期間: 2024年12月頃	対象: 飼育系職員
内容 動物舎のエンリッチメントから来園者が楽しめる工夫など両方の目線で物事を見る力を養う。	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 教務勉強会(事例検討会)	連携企業等: 滋慶トータルサポートセンター
期間: 2024年11月20日	対象: 全学科教員
内容 多様化している学生・生徒に対応することや、サポートが必要な学生に対し今後どのようにサポートしていけば良いか等、実際の事例報告を行い勉強会を実施。クラスマネジメント力の向上を目的とする。	
研修名: FDミドルレベル研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2024年7月18日	対象: 全学科教員
内容 FD研修の目的とその展開を理解し、自学科のスタッフの成長を促進出来る。カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見が出来る。	
研修名: マネジメント研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2024年10月22日	対象: 全学科教員
内容 学校運営に関する必要な知識の習得並びに、姉妹校の成功事例を学ぶことで、新たな視点で自校の学校運営を考え、在校生・卒業生・教員・講師並びに動物業界にとって、より良い学校になるように反映させる。	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年に1回以上委員会を開催する。評価委員会は、本校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かすことを目的とする。評価委員は、卒業生1名、保護者代表1名、近隣関係者1名、高校関係者1名並びに動物業界関係者6名の合計10名の委員定数で構成され、任期は1年である。毎年5月に開催している。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	海外提携校との交流
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

継続的な取り組み(これまでの学校評価を踏まえ継続的に実施している内容)

- ・学生の満足度を判断する材料の一つとして定期的に授業アンケートを実施し、その内容を踏まえ、講師会で伝え改善に努めている。また職員の研修を強化し授業づくり、クラス作りに繋げている。
- ・学生が心の悩み等で不登校や中途退学になり、修学を断念することが無いよう、学生相談窓口を徒歩3分の場所に設置し専属のカウンセラーを常駐し、心を支える取り組みをしている。
- ・卒業教育及び再就職サポートとして対面による面談のみならず、オンラインや電話を含む相談窓口を用意し実践している。

昨年度の評価で指摘された事項で、留意して取り組んでいく事項

- ・卒業生の大規模な調査を実施し、意見を吸い上げフィードバックした方が良い。
- ・国家試験の合格率が気になる。今後の活動に影響があるので少しでも合格者を増やしてほしい。
- ・急激な時代の変化の中、スタッフは対応が難しい部分もあるだろうが学生満足度向上のため、支援体制は継続してほしい。
- ・防災計画がしっかりとしているので、学生にも災害に対しての危機意識をどう持ってもらうかが課題だと思う。
- ・福岡が県をあげて取り組んでいる「ワンヘルス」に関連した貢献活動ができるのであればニーズは高いと思う。

などの多くの意見をいただいた。これらの意見を踏まえ、各部門で改善できる内容については、事務局長・教務部長・各学科長で協議し、更に教務会議及び全体会議等でこれらの意見をスタッフ全員で共有し、具体的な対策を検討しその実現を図っている。教育内容については、毎年5月ごろに開催する教育課程編成委員会に評価委員会の意見を示し、その審議を踏まえ、年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
坂本 恵理	株式会社ビースパ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
山口 響	株式会社AHB	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
田中 飛翔	動物園・動物飼育2年 田中ひなた保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者
鵜澤 拓哉	エコ・コミュニケーション科 動物園公務員専攻卒業	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
戎崎 淳一	福岡市大浜公民館	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	近隣代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.eco.ac.jp/>

公表時期: 2024年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校が毎年定める事業計画の執行方針において提起された目標を具体化するために、動物業界の企業等からヒアリングを行い、動物業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法として、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等を審議を行い、そこで出たご意見を反映させることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、事業計画、事業報告
(2)各学科等の教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(3)教職員	教職員の氏名、略歴等の紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(5)様々な教育活動・教育環境	学校設備紹介等
(6)学生の生活支援	学校相談センターの案内、奨学金申込み案内等
(7)学生納付金・修学支援	授業料及びその他実習費
(8)学校の財務	事業計画、事業報告
(9)学校評価	自己点検、自己評価結果、学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	海外提携校との交流
(11)その他	社会貢献(地域社会と連携した行事)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.eco.ac.jp/>

公表時期: 2024年7月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 エコ・コミュニケーション科 (動物園・動物飼育専攻))																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			キャリアプランニングⅠ	キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	1前後	60	4	○			○		○		
	○			キャリアプランニングⅡ	将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなどを発揮できるようになる。	2前後	60	4	○			○		○		
	○			キャリアプランニングⅢ	2年間のキャリア教育で身につけたセルフマネジメントとチームマネジメントを実践し、就職内定を勝ち取ることができる。	3前後	60	4	○			○		○		
	○			プレゼンテーションⅠ	人前で話ができるよう自己表現力(人前での話し方)を養い、考えを伝えることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
	○			コミュニケーションスキルアップ	良識のある社会人になるために、必要なコミュニケーションを身につけ、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
	○			ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	随時	60	4		○		○			○	○
	○			キャリアサポートアップ	就職活動に必要な面接技法や自己PRの仕方、電話応対など、実践的な自己表現力を養い、発揮できるようになる。	随時	30	2		○		○			○	○
	○			社会人基礎力	職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を理解し、実践することができるようになる。	随時	30	2		○		○			○	
	○			マネジメント	経営や組織管理に必要な能力を理解し、実践できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	○
	○			SDGs	SDGs(持続可能な開発目標)について基礎知識と背景、具体的な企業の取り組みについて理解し、説明できるようになる。	3前後	60	4	○			○			○	○
	○			コンピュータ演習	ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な使い方を学び応用・作成ができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
	○			動画制作	スマートフォンで撮影した画像・動画の加工編集技術を身につけ、HPやSNSで情報発信ができるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	○
	○			デジタルコンテンツ演習	2年間で学んだ知識を生かし、デジタルコンテンツを作成・活用し、効果的な表現・発信をすることができる。	3前後	60	4		○		○			○	○
	○			アニマルベーシック	動物業界の仕事に携わるために必要な知識を学ぶ上で、その基礎となる細胞、遺伝子、体の機能を学び、説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
	○			動物の体のしくみ	犬を中心とした基本的な動物の体の構造骨格や生理的な知識を理解し、説明できるようになる。	随時	30	2		○		○			○	

35	○	植物	動物の餌や植栽に利用する自生植物や園芸植物の生態を理解し、活用できるようになる。	随時	30	2	○	○	○	○	○	○
36	○	企業プロジェクト	企業より課題をいただき、プロジェクトを企画・運営まで実践できるようになる。	随時	360	24	○	○	○	○	○	○
37	○	進級課題	学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。	随時	120	8	○	○	○	○	○	○
38	○	卒業課題	入学以来これまで身につけた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行う。	3後	60	4	○	○	○	○	○	○
39	○	海外実学研修	グローバル化する現代社会で活躍するために、国際性を身につけるための国際教育。	1後	60	4	○	○	○	○	○	○
40	○	海外専門留学	10週間オーストラリアに留学し、さらなる専門知識や技術を修得すると共に、国際人としての語学力と感性を身に付ける事を目的に実施します。	随時	450	30	○	○	○	○	○	○
41	○	選択科目	業界でより活躍するための、専門知識・技術を幅広く学ぶ。	随時	300	20	○	○	○	○	○	○
42	○	グローバルコミュニケーション	リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的に学び、日常生活において平易な会話ができるようになる。	随時	720	48	○	○	○	○	○	○
43	○	業界研修	企業から課題をいただき、それに取り組むことにより専門知識・技術に磨きをかけます。	随時	270	18	○	○	○	○	○	○
44	○	特別講義&見学	業界で活躍中のプロの方々から豊富な知識・情報を頂く特別授業や施設見学を行う。	随時	45	3	○	○	○	○	○	○
45	○	イベント運営	学習成果の発表の場としてのイベントを行い、習得した専門知識や技術を実践する。	随時	45	3	○	○	○	○	○	○
46	○	特別課外活動	学友会活動やクラブ活動を通して、チームワークや企画、運営力を養う。	随時	45	3	○	○	○	○	○	○
47	○	ボランティア活動	市民社会の形成に貢献するために、ボランティア活動を行います。	随時	45	3	○	○	○	○	○	○
48	○	資格取得講座	各専攻で学んだ専門知識や技術の、さらなるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し資格取得を目指します。	随時	45	3	○	○	○	○	○	○
49	○	内定者研修	就職内定者を対象に、現場力を身につけるために実践的な研修を行ない、卒業時には即戦力として活躍できるようになる。	随時	90	6	○	○	○	○	○	○
50	○	特別研究課題	就職内定者を対象に、就職先よりレベルの高い研究課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	2	○	○	○	○	○	○
51	○	卒業企業課題	就職内定者を対象に、就職先より企業課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	12	○	○	○	○	○	○
合計				51 科目	4935 単位時間							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：（単位時間を単位に換算し）各年次60単位以上取得し、3年間で180単位以上取得する。これを踏まえ、卒業認定会議で卒業認定されること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：選択必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66,7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																														
福岡ECO動物海洋専門学校		平成16年2月23日	谷川 浩史	〒 812-0033 (住所) 福岡県福岡市博多区大博町4-16 (電話) 092-262-2177																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																														
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6-16-2 (電話) 03-5878-3311, 03-6808-3201																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	文化・教養専門課程	エコ・コミュニケーション科(水族館・アクアリスト専攻)	平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度																													
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことを使命とし、動物・海洋・自然の仕事を通して、人に喜びと感動を与え、動物業界での即戦力となる人材を養成する。																																	
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	主な教育内容:水生生物の飼育や管理について学び、水族館・アクア業界で活躍するための技術、スキルを学ぶ。 取得可能な資格:一級小型船舶操縦士・二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶・PADIオープンウォーターCカード・潜水士 ・JESC認定コミュニケーションスキルアップ検定・販売士検定3級・販売士検定4級・生物分類技能検定3級・生物分類技能検定4級・愛玩動物飼養管理士2級																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,700 単位時間 — 単位	1,020 単位時間 — 単位	4,035 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位																										
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																													
360 人の内数	103 人	1 人	1 %	3.9 %																														
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 5 年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 卒業生実績なし</p>						■卒業者数(C)	0	人	■就職希望者数(D)	0	人	■就職者数(E)	0	人	■地元就職者数(F)	0	人	■就職率(E/D)	0	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	0	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	0	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	0	人																																
■就職希望者数(D)	0	人																																
■就職者数(E)	0	人																																
■地元就職者数(F)	0	人																																
■就職率(E/D)	0	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	0	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	0	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://www.eco.ac.jp																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>5,055 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>2,115 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,610 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>1,020 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>270 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>— 単位</td></tr> </table>						総授業時数	5,055 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	2,115 単位時間	うち必修授業時数	2,610 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	1,020 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	270 単位時間	総単位数	— 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	— 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	— 単位	うち必修単位数	— 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	— 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	— 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	— 単位
総授業時数	5,055 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	2,115 単位時間																																	
うち必修授業時数	2,610 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	1,020 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	270 単位時間																																	
総単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	— 単位																																	
うち必修単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	— 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	— 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>1 人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	1 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人	計	3 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	1 人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1 人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人																																	
計	3 人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させることを基本方針とし、次のような取り組みを行っている。企業との連携について、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらう取り組みも行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程については、学校関係者評価委員会の意見も踏まえ、毎年5月に開催する教育課程編成委員会において改訂内容を審議し、その内容を踏まえ年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
坂本 恵理	株式会社ビースパ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山口 響	株式会社AHB	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
谷川 浩史	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
満原 翔一	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
生野 祐二	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
村上 弘志	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
林田 新太郎	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月14日 15:10～16:00

第2回 令和7年2月6日 実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

展示・飼育だけでなく動物福祉も求められている中で、「命」について改めて伝えていく必要がある。また、現場での業務のみではなく、将来的に管理職を目指す人材を育成して欲しい。マネジメント能力だけではなく、企画力、イベント運営力などの経営面も考えられる人材を育成して欲しい。そして学生には専門分野だけでなく多角的な面からインプットさせる機会を与え、広い視野を持ち学んだことをアウトプットする機会も創出して欲しい。という意見を頂き、飼育管理だけではなく集客など経営面も総合的に考えることができる人材を育成する為に「キャリアプランニング」や「プレゼンテーション」の授業内で「仕事に対する身構え・気構え・心構え」といったプロ意識の確立、「社会的人格形成」「自主性・主体性・積極性の育成」「仕事観・職業観の確立による早期退職の防止」「基礎力と柔軟な応用力の育成」など授業の改善に取り組んでいる。また、校外での学びを充実させるべく外部企業と連携を深めていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成に取り組んでおり、特に演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案・実施し、達成度評価を行うことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。研修実施前の協議を徹底すると共に、教員による研修先の訪問を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
水族館総合演習	1. 【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当 水族館の役割、歴史や飼育業務について学び、これからの水族館について考え、伝えることができるようになる。	(株)海の中道海洋生態科学館
海洋自然観察概論	1. 【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当 海洋生物をテーマとし、環境教育やガイドについて学び、インタープリターとして必要な知識を身に付け、伝えることができるようになる。	NPO法人 PACI
ダイビング演習	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。) PADIダイビングライセンス取得を目指します。限定的な範囲の水中を対象に、水中の生物観察・調査が安全に行える潜水・潜行技術を身に付けることができるようになる。	有限会社 ジェイ・ケイDIVE ESUCH
潜水士対策講座	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。) 国家資格「潜水士」の合格できるようになる。	有限会社 ジェイ・ケイDIVE ESUCH
船舶免許対策講座2級・特殊	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。) 広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な動力船に対する知識を学び小型船舶操縦士2級免許取得をする。	株式会社 ポート免許センター

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講師をお招きしての講習会、セミナーに専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 館内水槽展示について	連携企業等： 九十九島水族館海きらら
期間： 2023年12月13日	対象： エコ・コミュニケーション科教員
内容： 館内での企画及び水槽展示技術・手法を学ぶ	
研修名： 都市型水族館における展示について	連携企業等： カワスイ 川崎水族館
期間： 2023年12月16日	対象： エコ・コミュニケーション科教員
内容： 水族館業務を知り、来館者への展示技術・解説・イベント等を学ぶ	
研修名： 飼育員業務と、マグロ・ペンギン飼育について	連携企業等： 葛西臨海水族園
期間： 2023年12月15日	対象： エコ・コミュニケーション科教員
内容： 公益水族館における業務の違いと、マグロ飼育について	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅰ	連携企業等： 滋慶教育科学研究所
期間： 2023年5月24日	対象： 全学科教員
内容： 滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感しクラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正が出来るようになる。ひとりで「クラス」をささえるのではなく、学生のセーフティーネットが構築できる。	
研修名： FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅱ	連携企業等： 滋慶教育科学研究所
期間： 2023年7月26日	対象： 全学科教員
内容： 滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感、クラスマネジメントのポイントを理解し、「クラス」をひとりで支えることなく、学生のセーフティーネットの運用のため「実行計画」作成、実践、修正ができるようになる。	
研修名： 教職員カウンセリング研修	連携企業等： 滋慶教育科学研究所
期間： 2023年9月	対象： 全学科教員
内容： 滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。	

(3) 研修等の計画																									
① 専攻分野における実務に関する研修等																									
研修名: 変わりメダカ作出について 期間: 2024年5月10日 内容: 変わりメダカの作出の為の手法や作出確率について	連携企業等: 株式会社 神畑養魚 対象: エコ・コミュニケーション科教員																								
研修名: 水族館業務について 期間: 2024年10月頃 内容: 水族館業務を知り、展示技術・解説・イベント等を学ぶ	連携企業等: 大分マリンパレス水族館「うみたまご」 対象: エコ・コミュニケーション科教員																								
研修名: 水族館におけるエデュテイメント 期間: 2024年12月頃 内容: 他水族館とエデュテイメント水族館の違い、特徴について	連携企業等: 新江ノ島水族館 対象: エコ・コミュニケーション科教員																								
② 指導力の修得・向上のための研修等																									
研修名: 教務勉強会(事例検討会) 期間: 2024年11月20日 内容: 多様化している学生・生徒に対応することや、サポートが必要な学生に対し今後どのようにサポートしていけば良いか等、実際の事例報告を行い勉強会を実施。クラスマネジメント力の向上を目的とする。	連携企業等: 滋慶トータルサポートセンター 対象: 全学科教員																								
研修名: FDミドルレベル研修 期間: 2024年7月18日 内容: FD研修の目的とその展開を理解し、自学科のスタッフの成長を促進出来る。カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見が出来る。	連携企業等: 滋慶教育科学研究所 対象: 全学科教員																								
研修名: マネジメント研修 期間: 2024年10月22日 内容: 学校運営に関する必要な知識の習得並びに、姉妹校の成功事例を学ぶことで、新たな視点で自校の学校運営を考え、在校生・卒業生・教員・講師並びに動物業界にとって、より良い学校になるように反映させる。	連携企業等: 滋慶教育科学研究所 対象: 全学科教員																								
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係																									
(1) 学校関係者評価の基本方針 自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年に1回以上委員会を開催する。評価委員会は、本校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かすことを目的とする。評価委員は、卒業生1名、保護者代表1名、近隣関係者1名、高校関係者1名並びに動物業界関係者6名の合計10名の委員定数で構成され、任期は1年である。毎年5月に開催している。																									
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td> <td>教育理念・目的・育成人材像</td> </tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td> <td>学校運営</td> </tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td> <td>教育活動</td> </tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td> <td>学修成果</td> </tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td> <td>学生支援</td> </tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td> <td>教育環境</td> </tr> <tr> <td>(7) 学生の受入れ募集</td> <td>学生募集と受け入れ</td> </tr> <tr> <td>(8) 財務</td> <td>財務</td> </tr> <tr> <td>(9) 法令等の遵守</td> <td>法令等の遵守</td> </tr> <tr> <td>(10) 社会貢献・地域貢献</td> <td>社会貢献</td> </tr> <tr> <td>(11) 国際交流</td> <td>海外提携校との交流</td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像	(2) 学校運営	学校運営	(3) 教育活動	教育活動	(4) 学修成果	学修成果	(5) 学生支援	学生支援	(6) 教育環境	教育環境	(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ	(8) 財務	財務	(9) 法令等の遵守	法令等の遵守	(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献	(11) 国際交流	海外提携校との交流	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像																								
(2) 学校運営	学校運営																								
(3) 教育活動	教育活動																								
(4) 学修成果	学修成果																								
(5) 学生支援	学生支援																								
(6) 教育環境	教育環境																								
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ																								
(8) 財務	財務																								
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守																								
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献																								
(11) 国際交流	海外提携校との交流																								
※(10)及び(11)については任意記載。																									

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

継続的な取り組み(これまでの学校評価を踏まえ継続的に実施している内容)

- ・学生の満足度を判断する材料の一つとして定期的に授業アンケートを実施し、その内容を踏まえ、講師会で伝え改善に努めている。また職員の研修を強化し授業づくり、クラス作りに繋げている。
- ・学生が心の悩み等で不登校や中途退学になり、修学を断念することが無いよう、学生相談窓口を徒歩3分の場所に設置し専属のカウンセラーを常駐し、心を支える取り組みをしている。
- ・卒後教育及び再就職サポートとして対面による面談のみならず、オンラインや電話を含む相談窓口を用意し実践している。

昨年度の評価で指摘された事項で、留意して取り組んでいく事項

- ・卒業生の大規模な調査を実施し、意見を吸い上げフィードバックした方が良い。
 - ・国家試験の合格率が気になる。今後の活動に影響があるので少しでも合格者を増やしてほしい。
 - ・急激な時代の変化の中、スタッフは対応が難しい部分もあるだろうが学生満足度向上のため、支援体制は継続してほしい。
 - ・防災計画がしっかりとしているので、学生にも災害に対する危機意識をどう持ってもらうかが課題だと思う。
 - ・福岡が県をあげて取り組んでいる「ワンヘルス」に関連した貢献活動ができるのであればニーズは高いと思う。
- などの多くの意見をいただいた。これらの意見を踏まえ、各部門で改善できる内容については、事務局長・教務部長・各学科長で協議し、更に教務会議及び全体会議等でこれらの意見をスタッフ全員で共有し、具体的な対策を検討しその実現を図っている。教育内容については、毎年5月ごろに開催する教育課程編成委員会に評価委員会の意見を示し、その審議を踏まえ、年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
坂本 恵理	株式会社ピースパ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
山口 響	株式会社AHB	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
田中 飛翔	動物園・動物飼育2年 田中ひなた保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者
鵜澤 拓哉	エコ・コミュニケーション科 動物園公務員専攻卒業	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
戎崎 淳一	福岡市大浜公民館	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	近隣代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.eco.ac.jp/>

公表時期: 2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校が毎年定める事業計画の執行方針において提起された目標を具体化するために、動物業界の企業等からヒアリングを行い、動物業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法として、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等を審議を行い、そこで出たご意見を反映させることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、事業計画、事業報告
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(3) 教職員	教職員の氏名、略歴等の紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校設備紹介等
(6) 学生の生活支援	学校相談センターの案内、奨学金申込み案内等
(7) 学生納付金・修学支援	授業料及びその他実習費
(8) 学校の財務	事業計画、事業報告
(9) 学校評価	自己点検、自己評価結果、学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	海外提携校との交流
(11) その他	社会貢献(地域社会と連携した行事)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://www.eco.ac.jp/>
公表時期: 2024年7月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 エコ・コミュニケーション科 (水族館・アクアリスト専攻))																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			キャリアプランニングⅠ	キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	1前後	60	4	○			○		○		
	○			キャリアプランニングⅡ	将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や心構え・身構え・心構えなどを発揮できるようになる。	2前後	60	4	○			○		○		
	○			キャリアプランニングⅢ	2年間のキャリア教育で身につけたセルフマネジメントとチームマネジメントを実践し、就職内定を勝ち取ることができる。	3前後	60	4	○			○		○		
	○			プレゼンテーションⅠ	人前で話ができるよう自己表現力（人前での話し方）を養い、考えを伝えることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
	○			コミュニケーションスキルアップ	良識のある社会人になるために、必要なコミュニケーションを身につけ、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	○
	○			ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	2前後	60	4	○			○			○	○
	○			キャリアサポートアップ	履歴書の作成、適正検査対策、作文・小論文対策を行い就職活動に臨むことができるようになる。	随時	30	2	○			○			○	○
	○			社会人基礎力	ビジネスマンとして入職後に必要な基本的な立ち振る舞いを取得し、実践することができるようになる。	随時	30	2	○			○			○	
	○			コンピュータ演習	ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な使い方を学び応用・作成ができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
	○			演出効果総論	音響・映像・照明等の基本知識を習得し、空間プロデュースの演出を企画・立案することができるようになる。	3前後	60	4	○			○			○	○
	○			デジタルクリエイティブ	様々なデジタル技術の活用方法を学び、デジタル技術を用いた企画の立案ができるようになる。	3前後	60	4	○			○			○	○
	○			アニマルベーシック	動物を学ぶ上で、その基礎となる細胞、遺伝子、体の機能を学び、説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
	○			動物の体のしくみ	犬を中心とした基本的な動物の体の構造骨格や生理的な知識を学び、説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
	○			動物の健康管理	動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を学び、説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
	○			アニマルヒストリー	コンパニオンアニマルとしてのルーツを探り、動物の歴史と人間の関わりなどを学び、説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	

53	○	ボランティア活動	市民社会の形成に貢献するために、ボランティア活動を行います。	随時	45	3	○		○	○		
54	○	資格取得講座	各専攻で学んだ専門知識や技術の、さらなるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し資格取得を目指します。	随時	45	3	○		○	○		
55	○	内定者研修	就職内定者を対象に、現場力を身につけるために実践的な研修を行ない、卒業時には即戦力として活躍できるようになる。	随時	90	6	○		○	○	○	○
56	○	特別研究課題	就職内定者を対象に、就職先よりレベルの高い研究課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	12	○		○	○	○	○
57	○	卒業企業課題	就職内定者を対象に、就職先より企業課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	12	○		○	○	○	○
合計					57 科目		5055 単位時間					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：（単位時間を単位に換算し）各年次60単位以上取得し、3年間で180単位以上取得する。これを踏まえ、卒業認定会議で卒業認定されること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：選択必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66,7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																														
福岡ECO動物海洋専門学校		平成16年2月23日	谷川 浩史	〒 812-0033 (住所) 福岡県福岡市博多区大博町4-16 (電話) 092-262-2177																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																														
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6-16-2 (電話) 03-5878-3311, 03-6808-3201																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	文化・教養専門課程	エコ・コミュニケーション科(水族館&マリンリゾート専攻)	平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度																													
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことを使命とし、動物・海洋・自然の仕事を通して、人に喜びと感動を与え、動物業界での即戦力となる人材を養成する。																																	
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	主な教育内容:魚類、水槽管理など水族館の知識や、海洋・レジャー業界で活躍するための技術、スキルを学ぶ。 取得可能な資格:一級小型船舶操縦士・二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶・PAD1オープンウォーターCカード・潜水士・JESC認定コミュニケーションスキルアップ検定・JHMA認定アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネータ検定(3年生のみ)・Microsoft Azure AI Fundamentals AI-900(3年生のみ)・販売士検定3級・販売士検定4級・生物分類技能検定3級・生物分類技能検定4級・愛玩動物飼養管理士2級																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,700 単位時間 — 単位	930 単位時間 — 単位	4,410 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																														
360 人の内数	5 人	0 人	0 %	0 %																														
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>2</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>2</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>2</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 5 年度卒業者に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 水族館業界</p>							■卒業者数(C)	2	人	■就職希望者数(D)	2	人	■就職者数(E)	2	人	■地元就職者数(F)	0	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	0	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他		
■卒業者数(C)	2	人																																
■就職希望者数(D)	2	人																																
■就職者数(E)	2	人																																
■地元就職者数(F)	0	人																																
■就職率(E/D)	100	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	0	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無																															
当該学科のホームページURL	https://www.eco.ac.jp																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>5,340 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>2,430 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,970 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>1,290 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>270 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>— 単位</td></tr> </table>						総授業時数	5,340 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	2,430 単位時間	うち必修授業時数	2,970 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	1,290 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	270 単位時間	総単位数	— 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	— 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	— 単位	うち必修単位数	— 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	— 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	— 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	— 単位
総授業時数	5,340 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	2,430 単位時間																																	
うち必修授業時数	2,970 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	1,290 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	270 単位時間																																	
総単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	— 単位																																	
うち必修単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	— 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	— 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>0 人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	1 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																	
計	1 人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させることを基本方針とし、次のような取り組みを行っている。企業との連携について、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらう取り組みも行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程については、学校関係者評価委員会の意見も踏まえ、毎年5月に開催する教育課程編成委員会において改訂内容を審議し、その内容を踏まえ年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
坂本 恵理	株式会社ピースパ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
山口 響	株式会社AHB	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
谷川 浩史	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
満原 翔一	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
生野 祐二	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
村上 弘志	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
林田 新太郎	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月14日 15:10～16:00

第2回 令和7年2月6日 実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

展示・飼育だけでなく動物福祉も求められている中で、「命」について改めて伝えていく必要がある。また、現場での業務のみではなく、将来的に管理職を目指す人材を育成して欲しい。マネジメント能力だけではなく、企画力、イベント運営力などの経営面も考えられる人材を育成して欲しい。そして学生には専門分野だけでなく多角的な面からインプットさせる機会を与え、広い視野を持ち学んだことをアウトプットする機会も創出して欲しい。マリンアクティビティに関する資格取得も目指せると尚良い。という意見を頂き、飼育管理だけではなく集客など経営面も総合的に考えることができる人材を育成する為に「キャリアプランニング」や「プレゼンテーション」の授業内で「仕事に対する身構え・気構え・心構え」といったプロ意識の確立、「社会的人格形成」「自主性・主体性・積極性の育成」「仕事観・職業観の確立による早期退職の防止」「基礎力と柔軟な応用力の育成」など授業の改善に取り組んでいる。また、校外での学びを充実させるべく外部企業と連携を深めていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成に取り組んでおり、特に演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案・実施し、達成度評価を行うことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。研修実施前の協議を徹底すると共に、教員による研修先の訪問を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
水族館総合演習	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	水族館の役割、歴史や飼育業務について学び、これからの水族館について考え、伝えることができるようになる。	(株)海の中道海洋生態科学館
海洋自然観察概論	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	海洋生物をテーマとし環境教育やガイドについて学び、インタープリターとして必要な知識を身に付けることができるようになる。	NPO法人 PACI
ダイビング演習	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	PADIダイビングライセンス取得を目指します。限定的な範囲の水中を対象に、水中の生物観察・調査ができるようになる。	有限会社 ジェイ・ケイDIVE ESUCH
潜水士対策講座	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	国家資格「潜水士」の合格ができるようになる。	有限会社 ジェイ・ケイDIVE ESUCH
船舶免許対策講座2級・特殊	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な動力船に対する知識を学び小型船舶操縦士2級免許取得をする。	株式会社 ポート免許センター

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講師をお招きしての講習会、セミナーに専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	館内水槽展示について	連携企業等:	九十九島水族館海きらら
期間:	2023年12月13日	対象:	エコ・コミュニケーション科教員
内容:	館内での企画及び水槽展示技術・手法を学ぶ		
研修名:	都市型水族館における展示について	連携企業等:	カワスイ 川崎水族館
期間:	2023年12月16日	対象:	エコ・コミュニケーション科教員
内容:	水族館業務を知り、来館者への展示技術・解説・イベント等を学ぶ		
研修名:	飼育員業務と、マグロ・ペンギン飼育について	連携企業等:	葛西臨海水族園
期間:	2023年12月15日	対象:	エコ・コミュニケーション科教員
内容:	公益水族館における業務の違いと、マグロ飼育について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修 I	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023年5月24日	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感しクラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正が出来るようになる。ひとりで「クラス」をささえるのではなく、学生のセーフティーネットが構築できる。		
研修名:	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修 II	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023年7月26日	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感、クラスマネジメントのポイントを理解し、「クラス」をひとりで支えることなく、学生のセーフティーネットの運用のため「実行計画」作成、実践、修正ができるようになる。		
研修名:	教職員カウンセリング研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2023年9月	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。		

(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 変わりメダカ作出について	連携企業等: 株式会社 神畑養魚
期間: 2024年5月10日	対象: エコ・コミュニケーション科教員
内容 変わりメダカの作出の為の手法や作出確率について	
研修名: 水族館業務について	連携企業等: 大分マリンパレス水族館「うみたまご」
期間: 2024年10月頃	対象: エコ・コミュニケーション科教員
内容 水族館業務を知り、展示技術・解説・イベント等を学ぶ	
研修名: 水族館におけるエデュテイメント	連携企業等: 新江ノ島水族館
期間: 2024年12月頃	対象: エコ・コミュニケーション科教員
内容 他水族館とエデュテイメント水族館の違い、特徴について	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 教務勉強会(事例検討会)	連携企業等: 滋慶トータルサポートセンター
期間: 2024年11月20日	対象: 全学科教員
内容 多様化している学生・生徒に対応することや、サポートが必要な学生に対し今後どのようにサポートしていけば良いか等、実際の事例報告を行い勉強会を実施。クラスマネジメント力の向上を目的とする。	
研修名: FDミドルレベル研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2024年7月18日	対象: 全学科教員
内容 FD研修の目的とその展開を理解し、自学科のスタッフの成長を促進出来る。カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見が出来る。	
研修名: マネジメント研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2024年10月22日	対象: 全学科教員
内容 学校運営に関する必要な知識の習得並びに、姉妹校の成功事例を学ぶことで、新たな視点で自校の学校運営を考え、在校生・卒業生・教員・講師並びに動物業界にとって、より良い学校になるように反映させる。	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年に1回以上委員会を開催する。評価委員会は、本校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かすことを目的とする。評価委員は、卒業生1名、保護者代表1名、近隣関係者1名、高校関係者1名並びに動物業界関係者6名の合計10名の委員定数で構成され、任期は1年である。毎年5月に開催している。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	海外提携校との交流
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

継続的な取り組み(これまでの学校評価を踏まえ継続的に実施している内容)

- ・学生の満足度を判断する材料の一つとして定期的に授業アンケートを実施し、その内容を踏まえ、講師会で伝え改善に努めている。また職員研修を強化し授業づくり、クラス作りに繋げている。
- ・学生が心の悩み等で不登校や中途退学になり、修学を断念することが無いよう、学生相談窓口を徒歩3分の場所に設置し専属のカウンセラーを常駐し、心を支える取り組みをしている。
- ・卒業教育及び再就職サポートとして対面による面談のみならず、オンラインや電話を含む相談窓口を用意し実践している。

昨年度の評価で指摘された事項で、留意して取り組んでいく事項

- ・卒業生の大規模な調査を実施し、意見を吸い上げフィードバックした方が良い。
 - ・国家試験の合格率が気になる。今後の活動に影響があるので少しでも合格者を増やしてほしい。
 - ・急激な時代の変化の中、スタッフは対応が難しい部分もあるだろうが学生満足度向上のため、支援体制は継続してほしい。
 - ・防災計画がしっかりとしているので、学生にも災害に対する危機意識をどう持ってもらうかが課題だと思う。
 - ・福岡が県をあげて取り組んでいる「Funヘルス」に関連した貢献活動ができるのであればニーズは高いと思う。
- などの多くの意見をいただいた。これらの意見を踏まえ、各部門で改善できる内容については、事務局長・教務部長・各学科長で協議し、更に教務会議及び全体会議等でこれらの意見をスタッフ全員で共有し、具体的な対策を検討しその実現を図っている。教育内容については、毎年5月ごろに開催する教育課程編成委員会に評価委員会の意見を示し、その審議を踏まえ、年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
坂本 恵理	株式会社ピースパ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
山口 響	株式会社AHB	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界委員
田中 飛翔	動物園・動物飼育2年 田中ひなた保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者
鶴澤 拓哉	エコ・コミュニケーション科 動物園公務員専攻卒業	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
戎崎 淳一	福岡市大浜公民館	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	近隣代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.eco.ac.jp/>

公表時期: 2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校が毎年定める事業計画の実行方針において提起された目標を具体化するために、動物業界の企業等からヒアリングを行い、動物業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法として、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等を審議を行い、そこで出たご意見を反映させることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、事業計画、事業報告
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(3) 教職員	教職員の氏名、略歴等の紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校設備紹介等
(6) 学生の生活支援	学校相談センターの案内、奨学金申込み案内等
(7) 学生納付金・修学支援	授業料及びその他実習費
(8) 学校の財務	事業計画、事業報告
(9) 学校評価	自己点検、自己評価結果、学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	海外提携校との交流
(11) その他	社会貢献(地域社会と連携した行事)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.eco.ac.jp/>

公表時期: 2024年7月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 エコ・コミュニケーション科 (水族館&マリンリゾート専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		キャリアプランニングⅠ	キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	1前後	60	4	○			○		○		
2	○		キャリアプランニングⅡ	将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や心構え・身構え・心構えなどを発揮できるようになる。	2前後	60	4	○			○		○		
3	○		キャリアプランニングⅢ	2年間のキャリア教育で学んだセルフマネジメントとチームマネジメントを実践し、就職での内定を勝ち取ることができるようになる。	3前後	60	4	○			○		○		
4	○		プレゼンテーションⅠ	人前で話ができるよう自己表現力（人前での話し方）を養い、考えを伝えることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
5	○		コミュニケーションスキルアップ	良識のある社会人になるために、必要なコミュニケーションを身につけ、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○ ○	
6	○		ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	3前後	60	4	○			○			○ ○	
7	○		キャリアサポートアップ	履歴書の作成、適正検査対策、作文・小論文対策を行い就職活動に臨むことができるようになる。	2前	30	2	○			○			○ ○	
8	○		社会人基礎力	ビジネスマンとして入職後に必要な基本的な立ち振る舞いを取得し、実践することができるようになる。	2後	30	2	○			○			○	
9	○		中国語	中国語学習初心者でも実践的に使用できる中国語の習得を目指し、接客時に必要な簡単な中国語での会話ができる力をつけます。	随時	120	8		○		○			○	
10		○	グローバルコミュニケーション	リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的に学び、日常生活において平易な会話ができるようになる。	随時	720	48		○		○			○	
11	○		コンピュータ演習	ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な使い方を学び応用・作成ができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
12	○		デジタルクリエイト	様々なデジタル技術の活用方法を学び、デジタル技術を用いた企画の立案ができるようになる。	3前後	60	4	○			○			○ ○	
13	○		アニマルベーシック	動物業界の仕事に携わるために必要な知識を学ぶ上で、その基礎となる細胞、遺伝子、体の機能を学び、説明できるようになる。	1前	15	1	○			○			○ ○	
14	○		アニマルヒストリー	民族や宗教、歴史等の観点から人と動物の関わりに関して考え説明できるようになる。	1後	15	1	○			○			○	
15	○		動物の体のしくみ	犬を中心とした基本的な動物の体の構造骨格や生理的な知識を理解し、説明できるようになる。	1前	15	1		○		○			○	

16	○		動物の健康管理	動物を飼育するための飼育管理方法や、病気やその予防法を理解し、説明できるようになる。	1 後	15	1		○	○								○	
17	○		次世代のための環境教育	人の理解・自然と暮らし文化に基づき、環境教育の基礎を学び、伝えることができるようになる。	1 前後	60	4		○		○							○	○
18	○		SDGs	SDGsの掲げる17のゴールを理解すると共に169の目標を知り、自身に出来ることを考え実践できるようになる。	3 前後	60	4		○		○							○	○
19	○		水生生物研究	水生生物の進化、分類、生理、生態などについて学び、伝えることができるようになる。	2 前後	60	4		○		○							○	
20	○		魚類研究	魚類の進化、分類、生態について学び、伝えることができるようになる。	1 前後	60	4		○		○							○	
21	○		魚類学実験	魚類の解剖や骨格標本作成を通して、魚類の生態について深く学び、伝えることができるようになる。	2 前後	120	8		○		○							○	
22	○		水生生物飼育管理Ⅰ	淡水に生息する生物を飼育する上で必要な、水質管理および浄化システムについて演習形式で学び、水槽管理ができるようになる。	1 前後	120	8		○		○							○	○
23	○		水生生物飼育管理Ⅱ	海水に生息する生物を飼育する上で必要な、水質管理および浄化システムについて演習形式で学び、水槽管理ができるようになる。	2 前後	120	8		○		○							○	○
24	○		水生生物飼育管理Ⅲ	2年間で学び得た水槽管理技術・知識をもって、外部施設への水槽展示の企画提案を行い、搬入設営が実践できるようになる。	3 前後	120	8		○		○							○	○
25	○		観賞魚研究Ⅰ	淡水に生息する生物を飼育する上で必要な知識・技術を学び、担当水槽管理に活かすことができるようになる。また、他者に淡水水槽の仕組みと生体管理を説明できるようになる。	1 前後	60	4		○		○							○	○
26	○		観賞魚研究Ⅱ	海水に生息する生物を飼育する上で必要な知識・技術を学び、海水水槽管理に活かすことができる。また、他者に海水水槽の仕組みと淡水水槽との違いを説明できるようになる。	2 前後	60	4		○		○							○	○
27	○		水族館総合演習	水族館の役割、歴史や飼育業務について学び、これからの水族館について考え、伝えることができるようになる。	1 前後	60	4		○		○							○	○
28	○		水族館概論	日本動物園水族館協会が担う4つの役割を理解し、水族館及び水族館飼育スタッフが果たすべき社会的責任を説明できるようになる。	1 前後	60	4		○		○							○	
29	○		魚病学	ウイルス病、細菌病、寄生虫病など魚類に多く見られる疾病の症状や予防・治療法について学び、対処できるようになる。	2 前	30	2		○		○							○	
30	○		動物栄養学概論	動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて学ぶと共に、飼料の種類・給餌方法を学び、伝えることができるようになる。	2 後	30	2		○		○							○	
31	○		両生・爬虫類研究	両生類および爬虫類を飼育管理していく上で必要な、知識・技術を学び、説明できるようになる。	1 前後	60	4		○		○							○	○
32	○		海洋生態	海洋の物理的・化学的特性を学ぶと共に、海洋環境と生物の関係や海生動物の個体間の相互関係などを学び、伝えることができるようになる。	3 前後	60	4		○		○							○	
33	○		マネジメント・マーケティング	水族館における様々なマネジメントを理解し、リーダーとして活躍できるようになる。また、マーケティング手法を学び、活用することができるようになる。	2 前後	60	4		○		○							○	○
34	○		スイムトレーニング	実務に有効な基礎泳力を身に付け、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1 前	15	1		○		○							○	○

54	○	海外専門留学	10週間オーストラリアに留学し、さらなる専門知識や技術を修得すると共に、国際人としての語学力と感性を身に付ける事を目的に実施します。	随時	450	30	○	○	○	○	
55	○	イベント運営	学習成果の発表の場としてのイベントを行い、習得した専門知識や技術を実践する。	随時	45	3	○	○	○		
56	○	特別課外活動	学友会活動やクラブ活動を通して、チームワークや企画、運営力を養う。	随時	45	3	○	○	○		
57	○	ボランティア活動	市民社会の形成に貢献するために、ボランティア活動を行います。	随時	45	3	○	○	○		
58	○	資格取得講座	各専攻で学んだ専門知識や技術の、さらなるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し資格取得を目指します。	随時	45	3	○	○	○		
59	○	内定者研修	動物の病気・怪我や異常についての基本的な知識や処置の方法を身につけ、ペットリマーとして動物・飼い主に寄り添った提案・アドバイスができるようになる。	随時	90	6	○	○	○	○	
60	○	特別研究課題	動物の病気・怪我や異常についての基本的な知識や処置の方法を身につけ、ペットリマーとして動物・飼い主に寄り添った提案・アドバイスができるようになる。	随時	180	12	○	○	○	○	
61	○	卒業企業課題	動物の病気・怪我や異常についての基本的な知識や処置の方法を身につけ、ペットリマーとして動物・飼い主に寄り添った提案・アドバイスができるようになる。	随時	180	12	○	○	○	○	
合計					61 科目		5340 単位時間				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：（単位時間を単位に換算し）各年次60単位以上取得し、3年間で180単位以上取得する。これを踏まえ、卒業認定会議で卒業認定されること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：選択必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66,7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。